

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com (No.146)

紙は環境に悪いのか？

— Google のペーパーレス化キャンペーンのその後 —

ペーパーレス化(紙の書類を減らして情報を電子化すること)のメリットとして業務効率向上やコスト削減に加えて「環境に良い」を掲げている企業の例が多々見受けられます。

ペーパーレス化が業務効率向上に役立つことは、例えば社内便等による紙の書類の送付に要していた時間が電子データならば無くなる(瞬時に送れる)ことひとつ取っても容易に理解できます。コストについても、紙代、印刷代、書類の保管スペース代や廃棄費用等を減らせますので、ペーパーレス化で増えるコスト(例えばサーバーやソフト等の導入/維持費用)と比較した上で、トータルコスト削減を実現できるケースはかなりあるだろうと察せられます。

しかしながら、「ペーパーレス化は環境に良い」、裏返して言えば「紙は環境に悪い」は、本当にそうなのでしょうか？ 紙の主原料は木材であり、木材は樹木を伐採して得るものなので、「紙は森林を破壊する」「森林保護のために紙の使用を控えるべき」という考え方は、一見分かりやすく、「インドネシアの熱帯雨林が減ったのは、同国の某製紙会社が元凶の一つだ」と盛んに言われていることと相俟って、かなり多くの人達にとって固定観念に近いものになってしまいましたが、この考え方は短絡的です。森林破壊とは、他の土地用途(農地、牧草地、宅地開発等)に転用される

などにより全面的に樹木が失われてしまうことです。木を伐採する一方で植林も行われて林業が営まれている森林は、破壊されているのではなく、むしろ保護されている森林です。従って森林を守るためには、森林の所有者が林業を続けること、そのためには他の用途への転用を思いとどまるに足る林業収入が得られること、つまり木材需要があることが鍵となります。紙は木材需要の一つです。インドネシアの某社に限ってはまだ改善が必要かと思われませんが、他の製紙会社で自然林を伐るような乱暴な例を筆者は知りませんので、製紙業界全般について言えば、林業を支えることを通じてむしろ森林の保全に貢献していると言って良いと思います。



今シリーズでは、「紙と印刷は環境に悪い訳ではない」という趣旨に沿った意見や関連データ等をご紹介します。行くつもりです。

今回は、Google 及び電子化関連のハードやサービスの会社十数社が共同で2013年1月早々に始めたキャンペーン「ペーパーレス化しよう 2013 (Go Paperless in 2013)」が環境に関する主張を撤回するに至った経緯をご紹介します。

■ 米欧の印刷業界団体が Google へ抗議文

同キャンペーンの当初のキャッチフレーズは「Save money. Save time. Save trees.」で、キャンペーンサイトのトップページの背景に森の写真が使われていました。Money(コスト)と time(時間)を節約し、trees(樹木)を救えと主張した訳ですが、これに対して「米国の印刷業界団体 PIA (Printing Industries of America) と欧州を本拠地とする印刷関連環境団体の

TwoSides が、2013年1月8日公開レターで Google に抗議文を送りました。両団体の主張をまとめますと、以下の通りです。

・印刷物の製造に使うエネルギーよりも、サーバーや個々のデバイスで使うエネルギーの総量の方がはるかに大きく、電子デバイスに必要なエネルギー量は増え続けている。

- ・紙の原料である木材は、(化石燃料と違って)持続可能、再生可能な資源である。米国の森林の樹木総量はこの 50 年で 49%増えており、森林面積は 100 年前と同じである(その間人口は3倍になっているにも関わらず)。また、欧州の森林面積は 1950 年比で 30%増えている。
- ・紙はリサイクル可能である(再生紙の原料になる)。一方、電子機器はリサイクル困難なものが多く使われており、廃棄物が社会問題になっている。
- ・印刷物は、一度製造されれば後は何回閲覧してもエネルギー消費が全くない唯一のメディアである。一方、電子メディアは閲覧の度に電気を使う。
- ・米国紙パ産業の消費エネルギーの 65%、欧州でも 54%は再生可能なバイオマスによるものである。

【筆者注】ちなみに日本の紙パ産業の再生可能エネルギーの比率は 2011 年度で 40.5%です。なお、製紙会社のバイオマスとして最もよく使われているものは黒液(パルプ製造工程で出る廃液)です。

- ・Google が今回のキャンペーンで事実に基づかずに環境負荷軽減を謳っているのは、米国と欧州の広告基準に反している。

ここまでは日本の印刷業界紙でも報じられましたが、その後この問題がどうなったのかについては少なくとも日本語では報道を目にしておりません。そこで今更ながら最近、TwoSides のサイトを見に行ってみましたところ、意外にもその後 Google は Save trees の主張を撤回していたことが分かりました。

■ Google が Save Trees (樹木を救え) の主張を撤回

Google は抗議文直後の 1 月 16 日に Save money, save time, save trees のキャッチフレーズを Take the paper out of “paper work”に変更しています(画像参照)。「ペーパーワークから紙を除きましょう」と言っているだけになりました。ただし、この時点ではまだサイトの背景に森の写真が残っており、環境負荷軽減の主張は払拭しきれていません。しかし 3 月 14 日に至って、背景も無地に変更になり、ついに主張は撤回されました(画像参照)。PIA と TwoSides の抗議が実る結果となりましたので、両団体は、過ちを改めるにはばかることの無かった Google の潔い姿勢に対して謝意を表しています。

(以下、画像は全て TwoSides のサイトより)



(第 146 回: 2014 年 1 月 8 日)